

2020年度 みらいの組織づくり実践委員会

委員長 山田 廣和

1. 運営方針

私たち熊谷青年会議所は創設以来、熊谷に暮らす自分たちの手でこのまちの課題を解決していくという意志のもと、運動を続けてまいりました。ところが、創設から68年を経て私たち熊谷青年会議所を取り巻く環境は大きく変わりました。例えば、戦後復興期におけるインフラさえも整備されていない、衣食住すべてがままならない時代から、経済的な成長期を経て、物質的には満たされる時代になりました。それに伴い、人の価値観は多様化し、熊谷青年会議所が取り組むべき課題も多様化しました。今私たちに求められていることは課題を見極め解決することです。

多様化した課題を見極め解決していくには「力強い組織」を作ることが必要だと考えます。力強い組織に必要なことは、第1に、まちの課題を自分事と捉えて積極的に活動するために、一人ひとりのメンバーが信念を持って活動に取り組むことです。第2に、組織内では情報共有を通してスクラムを組み、組織外では、共にまちの課題を解決していける賛同者・協力者とネットワークを構築し、活用していく事です。そして第3に、卒業のある熊谷青年会議所では、まちの課題を解決し続けるために仲間を増やしていく事です。最後に、熊谷青年会議所メンバーが常に謙虚な姿勢でいる事です。ここで言う謙虚な姿勢とは、これまでの慣例にとらわれることなく、常に自らに疑問を投げかけ、問題の本質、意味や意義を見出すための姿勢です。これら4つの要素を達成することにより力強い組織となるのです。

今後も私たちが力強い組織であり続けるためには変化を恐れずに現状と向き合っていく事が求められています。そこで本年度みらいの組織づくり実践委員会では、テーマを「変化」として、運動を展開してまいります。チャールズ・ダーウィンは著書『種の起源』の中で「唯一生き残るものは、変化できるものである」と述べております。ダーウィンは教訓としてではなく事実としてこの言葉を残しているのです。青年会議所の活動や運動の中にはメンバーそれぞれの人生を豊かにするための学びの機会が多く用意されています。変化を恐れずに謙虚な姿勢で臨むことで、その学びは楽しい事となり成長につながります。

熊谷青年会議所が力強い組織を作ることができれば、このまちは今後も訪れる時代の変化に伴う課題を解決し続けることができます。

2. 事業計画

- (1) メンバーが自分自身の人生の理念や目的を考える現役新年会の実施
- (2) メンバーにJC活動が人生の理念や目的に役に立つことを知ってもらうための例会の実施
- (3) 自分自身を見つめなおし、青年らしい言動を獲得する機会を作る
- (4) 「拡大大作戦2020」を運用する
- (5) 熊谷青年会議所の運動を引き継いでいくための卒業式の実施
- (6) 市民、パートナーシップ対象者、拡大対象者、対外メンバー、対内メンバーに熊谷青年会議所の組織や運動や機会を発信する
- (7) 非日常の機会と地域資産の魅力を掛け合わせた原体験を提供し、地域の大人、子ども、地域資産がつながることのできる寺子屋事業の実施
- (8) 熊谷の子どもたちが熊谷の地域資産と地域資産とつながりのある大人を知り、自発的な行動を促すことができる地域新聞の発行

みらいの組織づくり実践委員会

【メンバー紹介】

：委員長
山田 廣和
：Flower shop花松



：副委員長・理事
新井 祐助
：アラキ事務所



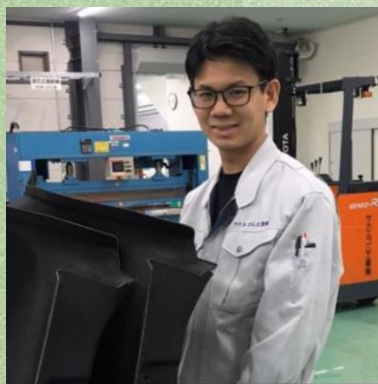
：理事
石川 雄太
：（有）三河屋



：理事
中島 寛
：（株）中島水道



：副委員長
田所 祐亮
：サカエゴム工業（株）



：委員
石山 太基
：石山商工（株）



：委員
菊地 博彰
：（有）東武燃料



：委員
堀 啓介
：堀造園



：委員
耜田 誠高
：双日商業開発（株）



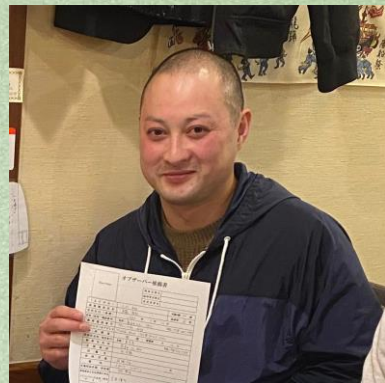
：委員
山田 樹奈
：(株) ショーシン



：委員
金子 峻昌
：(有) 金子園芸



：委員
斎藤 堅昭
：学校法人瑠璃光学園
成田こども園



：委員
高田 竜乃介
：日本郵便 (株)



：委員
植竹 英之
：植竹製菓



：委員
福島 彩夏
：エクステサロン
ELMO



：委員
中山 秀幸
：熊谷中央不動産 (株)

